

## 第 34 回反核医師のつどい in 沖縄 アピール

2024 年 1 月に今年の終末時計が発表されました。これは米国の原子力科学者会報が定期的に発表しているもので、核戦争などによる人類の終末を深夜 0 時とし、その終末までの残り時間を「あと何分」という形で示しています。人類の終末まで「残り 90 秒」。2 年連続で過去最短の「90 秒」です。その理由について、「ウクライナ侵略でロシアが核兵器を使用すると脅したこともあり、依然として人類は未曾有の危機に直面している。」と指摘しています。東西冷戦後の 1991 年の時計は「残り 17 分」まで巻き戻されました。私たちは、核兵器廃絶を求める多様な団体と手を取り合い、運動を広げ、1991 年の水準まで巻き戻し、さらに終末そのものを無くすために粘り強く取り組みます。

2021 年 1 月に核兵器禁止条約 (TPNW) が発効し、もうすぐ 4 年が経過し、すでに 94 かが署名し、73 かが批准しました。この条約は、核兵器の開発、実験、生産、製造、取得、保有、貯蔵、移転、受領、使用または使用の威嚇などの行為を禁止するものです。しかし、核保有国や NATO 加盟国など主要国の条約への参加はなく、米国やロシアを含む一部の国々では核兵器の近代化や新たな核兵器の開発に取り組んでいる現状があります。SIPRI によれば、世界の現役核弾頭の数 は 9,585 個で、2018 年から 2024 年の間に、ほとんどの核保有国が現役核弾頭の数を増やしています。これらの国々は 79 年前の広島や長崎の惨劇を繰り返さないためにも一刻も早く核兵器禁止条約を批准し核兵器廃絶に取り組むべきです。

沖縄では、79 年前に日本本土防衛のための時間稼ぎの捨て石作戦として、悲惨な地上戦が繰り広げられました。沖縄には、今なお国内の約 70% の米軍基地が集中しており、核兵器が持ち込まれていたという事実もあります。ピーク時には 1,300 発以上の核兵器が沖縄に貯蔵されていたという推計もあり、沖縄は事実上、東アジア最大の核基地となっていました。沖縄返還の際にも、核兵器に関する「密約」があったのではないかという疑惑が根強く残っています。世界的に核兵器廃絶の動きが強まる中、沖縄の核兵器について公式には明らかにされていません。日本政府は直ちに核兵器禁止条約を批准することで沖縄の核兵器貯蔵疑惑を払拭し、核兵器廃絶の明確な意志を世界に発信すべきです。

さいごに、日々、生命と向き合う私たち医師・医学者は核兵器がもたらす大量破壊、放射能による健康被害は生命への冒瀆であり、同時に人道に対する深刻な脅威と危機感を抱いています。未来に向けて、次世代に安全な世界を残すため、核兵器廃絶を訴え、歩み続けていきます。

2024 年 11 月 4 日

第 34 回核戦争に反対し、核兵器の廃絶を求める医師・医学者のつどい in 沖縄 参加者一同